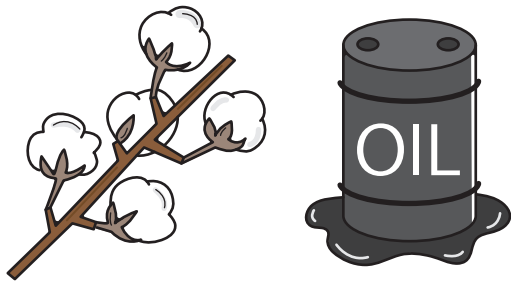
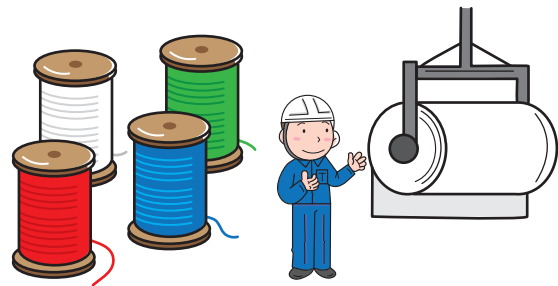


カードセットA 服の一生

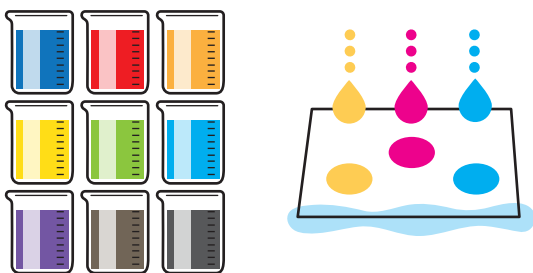
素材・原料を生産する



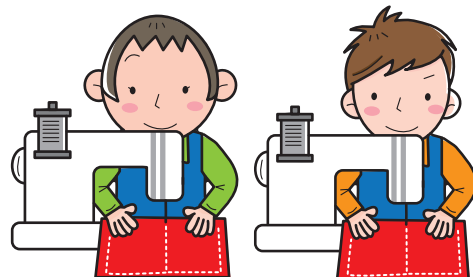
糸を紡いで布を織る（紡績）
ほうせき



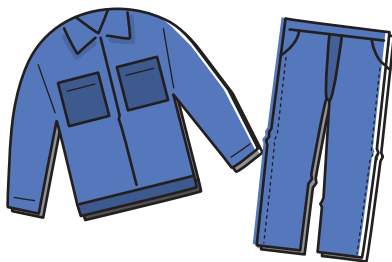
色を染める（染色）
せんしよく



布を切って縫う（裁断・縫製・加工）
さいだん ほうせい かこう



服が完成する



販売国・お店に送る（輸送）
ゆそう



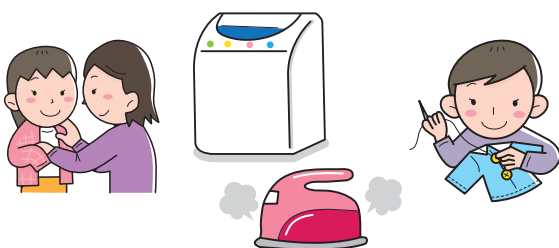
服を販売する



服を買う



服を着る・洗濯・手入れする



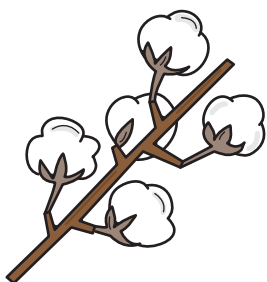
服を着なくなる・着られなくなる



カードセット B 服と環境

農薬・水の利用

綿(コットン)の原料の綿花の栽培には大量の化学肥料と農薬、水が使われます。



石油の利用

ポリエステル、ナイロン、アクリルなどの合成繊維の製造のために石油が採取・精製されます。



CO₂の排出

原料調達から廃棄までのあらゆる過程で二酸化炭素(CO₂)が排出されます。服1着あたりに換算すると、25.5kgで、500mlのペットボトル255本製造分に相当します。



化学薬品による汚染

紡績や染色には大量の化学薬品が使われます。適切に処理されないと、排水などが地域の水や土壌を汚染します。



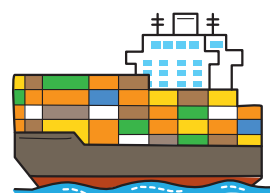
合成繊維

服に使用される素材の60%がポリエステルです。ポリエステルの86%が石油から生産され、リサイクルポリエステル繊維の割合は14%、植物由来のポリエステル繊維の割合は0.01%にすぎません。



輸送時のエネルギー利用

原料や糸や布地、完成した服の輸送ではCO₂が排出されます。距離が遠くなり、輸送量が増えるほど、より多くのエネルギーを必要とします。



お手入れ時のエネルギー利用

服を水で洗濯し、自然乾燥した時のCO₂排出量(電気・水の使用量)は1回あたり約73gですが、乾燥機を使うと約1,019gと約13倍にもなり、温水洗濯すると更に排出量は増えます。



マイクロプラスチックの流出

洗濯によりマイクロファイバー(合成繊維の場合はマイクロプラスチック)が自然環境に流出し、その多くが最終的に海に流れ込みます。海洋マイクロプラスチックの35%は合成繊維に由来すると考えられています。



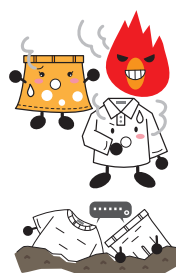
処分焼却・埋め立て(日本)

日本の服のリサイクル率は15%です。家庭から手放された服のうち66%が、焼却・埋め立て処分されています。これは1日当たり1,200トン(大型トラック120台分)に相当します。



処分焼却・埋め立て(世界)

世界で生産された服の60%が、製造されてから1年以内に焼却または埋め立て処分されていると推定されています。石油由来の合成繊維は焼却時に多くのCO₂が排出され、埋め立てても長期にわたり自然分解されることはありません。



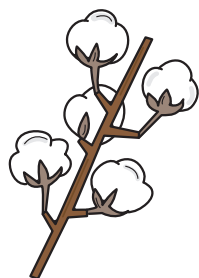
児童労働

綿花栽培には多くの手作業が必要で、体が小さく賃金が安いなどの理由から子どもたちが働かされていることがあります。児童労働は違法な人権問題と認識され改善されつつあるものの、無くなっていません。



農薬による健康被害

綿花は世界で最も農薬を消費する作物です。世界の全耕作地の2.4%を占める面積に対し、農薬使用量の4.7%、殺虫剤販売量の10%を使用しています。そして、44%の綿花農家が農薬中毒におちいつています。



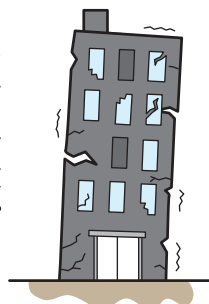
化学薬品による健康被害

生地染色や加工のために、多くの化学薬品が使用されています。適切に使用されないと、労働者や周辺の住民に健康被害を及ぼしたり、排出された物質により水や大気、土壌汚染を引き起こしたりします。



労働環境

縫製工場では、低賃金で安全ではない環境で働かされている労働者がいることがあります。2013年にはバングラデシュ・ダッカで複数の縫製工場が入ったビル(ラナ・プラザ)が崩落し、1,100人以上の労働者が命を落しました。



ジェンダー規範

女性にはスカートやハイヒールといった「女性らしい」服装を、男性にはズボンや背広などの「男性らしい」服装を求める「ジェンダー規範」は、その人らしく、心身に健康的な服装の選択肢を狭めてきました。



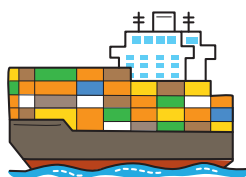
伝統文化・産業

グローバル化やファストファッションの普及に伴い、世界各地でファッションの独自性が失われ、伝統衣装を身に着ける人は減少しています。そして、伝統的な技術や産業の消失にもつながっています。



産業への影響

日本の衣類の輸入浸透率は1991年には50%でしたが、2020年には98%になりました。国内生産の減少により、国内の繊維事業所数、製造品出荷額ともに、1991年比で約4分の1に減少しました。



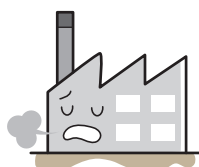
途上国への影響

途上国などに古着として寄付や販売されたものの一部は、廃棄されて環境汚染の原因になったり、現地の伝統的な繊維産業を破壊したりしています。



産業への影響

大量生産することで、服の1枚あたりの生産コストを下げられます。そのため、人件費が安く、大規模な工場がある国に生産拠点が移動していきます。日本だけでなく、世界各地で服の生産を担っていた職人や小規模事業者は選ばれなくなり、廃業しています。



労働者の技術習得

大規模な縫製工場では、効率よく服を仕立てるために作業を細かく分業化しています。労働者はボタン付け、袖付けなど、一部の作業はできますが、自分で服を一枚仕立てることができるような高い技術を身に着けることは困難なケースもあります。

